

「未来の京都」

ベン ユセフ エミラ

2022年の夏、2年ぶりに母国チュニジアに帰国した。チュニジアに帰る前はもちろんワクワクしていたが、同時に怖かった。私のなじみがあった生活が変化がしているかもしれないと思うと、怖かった。

2年ぶりだから、家庭の様子が変わったかな…？

妹と弟はどのくらい成長しただろう…？

日本にいる間に、チュニジアはどう変わったんだろう…？

2年前まで楽しんでいた家族での時間を、あの時と同じように楽しむことができるかな…？

日本でさみしい時に慰められたチュニジアのいい思い出がまた体験できるだろうか…？

日本に来てから、子どもの頃の首都チュニスへのお出かけが思い出されるようになった。

「この建物どこから見ても綺麗！」、6歳の私はここがモスクだとわかっているが、家に近いモスクとは見た目や大きさが違い、中に入ると、50本余りの細長い柱が並んでいて、真ん中には鳩が100匹ぐらい集まっていた。ドームの中はカラフルで、壁がアラベスクやモザイクで飾ってある静かなところだった。お祈りをしている人の姿を見るといつもは騒がしい兄弟も急に静かになった。あの時は、ただ「美しい！」としか思わなかった。モスクを出ると、またにぎやかな狭い道に戻る。そこで食べたかったお菓子を母に買ってもらった。「大人になったら自分のお金でその店のお菓子を全部買おう」と思いながら首都チュニスの古い町を家族で回っていった。「スーク」という、何でも売っているマーケットもあった。右側は洋服、左側はおもちゃ、その隣には本が置いてある。お店に入ったら、豊富な商品に夢中になった、一個一個細かく見たかった、可愛いキーチェーンの隣にはボールがあった。そして、その隣には、伝統的な楽器もあった。無限に並んでいるような商品をすべて見るのは不可能で、次の店に足を向かわせた。1時間経ってもまだ先ほどのモスクから全然距離的に離れていないと気づいた。しかし、ずっと兄弟で遊んでたり、新しいものを買ったりして、時間が過ぎるのには全く気付かなかった。そのお出かけが終わったあとは、「今日は楽しかった！」、「また行こう！」としか言っていないのを覚えている。そのときは、まさかこういった思い出をチュニジアから1万キロ離れている異国で、落ち込んだときやさみしいときに思い出すとは思わなかった。

チュニジアに住んでいた時は首都チュニスの古い町に行くと、子どもの頃のあの日の記憶が思い出され、もしストレスがたまっていたり、落ち込んでいたりしていても、安心できた。しかし、来日してからというもの、日本にはチュニジアらしいところがなかなかなくて、帰属感が感じられるところや自分自身がチュニジア人であって嬉しいと考えられることがなくなった。もちろん、日本にはきれいな場所がたくさんあって、遊びに行くところも多いので、楽しい場所だと思う。しかし、特にホームシックの時や日々の生活に飽きたと思う時などは、子供のころの懐かしい思い出を思い起こさせてく

れる場所があったら、いいと強く感じる。だから、「もし、日本からチュニジア人の私にとって大切なところ、母国を思い出させてくれるところを訪れることができるとしたら幸せだろう！」と常に思う。そうしたら、海外に住むことが今よりもずっと楽になると思う。

恐らく、そう思っているのは私だけじゃなくて、海外で働いたり留学したりしている日本人も同じだろう。そんなとき、多くの日本人にとって大切で日本らしさが感じられるところといえば、一番思い出すのは京都だろう。なぜなら、ほとんどの日本人が一回は京都に行ったことがあると思うからだ。子供の時の家族旅行であったり、就学旅行の時など京都に行ったことがある人は非常に多いだろう。だから、自分の家から本格的な京都訪問、京都体験のようなことができれば、海外に住んでいる日本人だけじゃなくて、日本に興味がある人も喜ぶと思う。

現代の時代の技術のおかげでそれは可能になった。それは VR(Virtual reality)というテクノロジーのおかげで、手軽に世界を仮想空間上で観光することが可能になってきて、動画の精度も非常に向上しているので、ゴーグル型のデバイスを頭に付けるだけで現実のように京都の体験ができる。その技術は最近ゲーム業界などでも流行している。これがもっと本格的に観光業界にも導入されたら、今の時代の革命的な新しい観光方法になると思う。そうしたら、京都の有名な観光スポットや子供のときの思い出があるところに手軽に行くことができる。そして、四季折々の金閣寺からの特別な景色や産寧坂の街並みを見ることができるし、瑠璃光院で参拝を体験することもできる。つまり、実際に京都に瞬間移動で行ってきたような体験ができるのである。

何よりも近年はコロナ禍で、バーチャル世界の大切さが明らかになった。勉強も買い物もゲームもその世界を通じてする機会が多くなった。今は旅行代も高騰してしまったので、実際に旅行をすることができない場合も多く、観光や旅行もそのバーチャル世界で楽しむことは将来、確実に流行すると思われる。

したがって、VR の技術を推進して、「未来の観光」に準備しておくべきだ。それで、本物の京都とともにバーチャル京都も作り上げるべきだと思う。